

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401350		
法人名	医療法人NANOグループ		
事業所名	グループホーム菜の花Ⅱ		
所在地	長崎県南島原市南有馬町乙1565番地1		
自己評価作成日	令和4年2月20日	外部評価結果確定日	令和4年4月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

診療所と併設しているグループホームなので、医療的に重度の利用者が多いですが、医療面では診療所と連携をとり、利用者一人一人の状態に応じて医療的に十分なサポートが行われている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JkyvosvoCd=4271401350-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年3月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今回の外部評価で評価に値する点を3つ挙げてみる。1つ目は前回の外部評価でホームが課題設定した家族へのアプローチ不足について、毎月請求書ができた時点で家族に電話連絡を行い、近況報告や意見収集することで改善を図った点である。2つ目は馴染みの人との関係継続支援の項目より、面会制限が続く中、どうにかして利用者や家族の接点を見出すため、職員が家族に電話する前に利用者に伝えたいことや希望がないか尋ねるようにしている。このようなちょっとした気配りがホームの風土を表している。3つ目は入浴を楽しむことができる支援の項目より、利用者によって入浴日(曜日・午前午後等)を特定せずに、チェック表に控えてある入浴の有無を見ながら柔軟に対応している。また、入浴剤を使って気分転換を図ったり、重度の利用者も2名態勢でゆっくり浴槽に浸かる等、心地よい入浴ができるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人の意志及び人格を尊重し自由に安全に生活できる」を理念に掲げ、食堂にも掲示している。職員は理念を共有し、利用者を優先、安全を第一に考えてケアを行うようにしている。	ホームでは理念の共有を図る目的で、ふとした時に文言が目に入れば理念を意識した言動に繋がるとの思いから、職員の目に付きやすい食堂に掲示している。理念の文言にある「自由」については、利用者の意思を聞き取り、危険が及ばない限り行動に繋げることとのことであった。また、利用者の意思表示が困難な場合は、家族に本人だったらどうするか尋ねたり、職員と「寄り添う」ことや「触れ合う」ことに重きを置いているとのことであった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事にはなるべく参加するようにしていたが、コロナウイルスの影響もあり最近ほとんど交流ができていない。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現在、地域との交流は皆無に等しいとのことであった。現在できていることとしては、電話等で地域の方と連絡を取る程度である。コロナ禍前は地域で開催される文化行事やマラソン大会の見学や応援等積極的に行っていた。今後、ウイルス感染の程度が沈静化してきたら、法人の方針に従って、再び地域とのつながりを取り戻していきたいとのことであった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法について知ってもらいたいと思っているがあまり生かされていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しているが、コロナ禍により書面での開催が多い。意見がでた時は、職員会議で報告し話し合いを行ってサービスの向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、運営推進会議は書面回覧型で行っている。概ね2か月に1回実施しており、利用者の状況報告や活動の報告等が中心となった議事録であった。運営推進会議については集合型の際から、なかなか意見が出てこないとのことで、今後ホームとしては工夫を重ねていく方針であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所で困ったことや分からない事は市町村に連絡し相談にのってもらっている。電話での対応が難しい時は市町村へ直接行き、協力を得てもらうようにしている。	行政機関との定期的な関わりは運営推進会議の場が中心であったが、現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、以前のように関わりが持てていないとのことであった。現在、行っていることとしては行政機関より提出依頼のある書類の書き方を問い合わせたことを例示された。その他、利用者の認知症状の件で相談したことがあるとのことであった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、生命にかかわる等の理由によりやむを得ず行う場合もある。その時は、家族に説明し同意を得て行っている。	身体拘束や虐待について正しい理解を得る機会として、管理者が毎年資料を配布して職員に黙読してもらっている。「拘束や虐待をしない」ことを前提に繰り返し正確な知識を習得するように努めている。どうしても生命の維持に支障をきたしたり、利用者に危険が及んだりして身体拘束を行う場合は、家族へ説明と同意を行い、実施前後の記録を基に職員間で情報を共有して、行政機関にも実施報告している。最近の実施事例として、経管栄養を実施している利用者が管を抜く行為が再三認められたため、指針に沿って行った例を確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修がある時は参加している。また内容については他の職員にも周知し、できるだけ虐待が見過ごせる事がないよう注意し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会は少ないが、必要となる場合は市の職員と話し合い活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容は十分な説明を行った上で、不安な点や疑問点をたずね理解、納得を図っている。不明な点があればいつでも聞いてほしいと伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や家族の面会時に心がけてコミュニケーションをとり意見や要望を聞き反映させている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、従来のようにホームの中でゆっくり面会することができない状況であるため、職員も家族との接点が著しく減っている現状とのことであった。このような中で管理者が工夫している点として、請求書ができた時点で一度家族に電話するようにして、この折に近況を伝えたり、逆に要望等がないか尋ねるようにしているとのことであった。最近、家族からの問い合わせとして、オムツの使用頻度が多くなっているがトイレ誘導しているのかどうか確認があったとのことである。この案件に関しては事情を伝えて理解が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議を開催し、職員の意見等を聞き反映させている。	管理者は日常業務の中や、毎日のミーティング、定期的開催している会議の場等で職員とコミュニケーションを取っている。職員の意見を聞く中で、どうしても中重度の利用者の介護を行う際に、職員の負担が大きくなる傾向があったため、高さの調整できるベッドに変更して腰痛を予防したり、エアマットを購入して体位交換する頻度を減らす等、職員の労働環境の改善に努めた例を確認した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等をしっかり評価されており、資格手当や能力給等で給料に反映しやりがいがもてるようになっている。徐々にではあるが職員が働きやすい環境にもなってきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の影響で外部の研修になかなか参加できない状況だが、オンライン研修がある時は職員全体で研修をうけるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しておりオンラインの会議や研修会を通じてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前やホームの説明時に不安な事、困っている事、要望等を詳しく聴き安心してもらえる関係作りに努めている。また本人の自尊心を傷つけないように言葉使いや対応にも注意をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にもホームの説明時に意向等を聞き、質問には可能な限り返答できるようにしている。不安な事があればいつでも相談してもらうよう伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望や意向を重視しつつ、身体状態も考慮しながら必要な支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事は自分でしてもらっている。レクリエーション等の行事には参加してもらい、よりよい関係作りに努めている。また同じ立場ではなく目上の人と思い毎日接するよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員では支援していくのが難しい部分もある為、家族にもできるだけ協力を得ている。また電話や面会時にも日々の状況や状態を伝え要望があれば聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会ができない事が多いが、家族への連絡を密に行っている。面会ができるようになったらすぐ家族へ連絡し面会をしようように努めている。	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、以前のように人の往来や外出をすることができず、ホームとしても苦慮しているところであった。このような状況下、ホームが行っていることとして、電話を取り次いで利用者と家族のコミュニケーションを仲介したり、職員が家族に電話する前に、利用者へ何か伝えたいことや要望がないか確認するようにしている。また、法人の方針で面会ができるようになった場合、ホームから家族へ連絡して面会を促す取組みも行っているとのことであった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時は食堂に集まって一緒に食べれるよう支援している。行事にも職員が間にはいり、利用者同士が関りが持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後、本人や家族から相談等を受ける事はほとんどないが、会う機会があれば声をかけ必要があれば相談や支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に意向を聞いて把握に努めている。困難な場合は家族の意向を聞きながら、生活歴や他の職種の意見を参考にしながら本人本位に検討している。	入所時に利用者と家族に自宅での過ごし方や居室のレイアウト等について聞き取りを行い、できる限りこれまでの暮らし方を尊重した支援をするように努めている。寝たきりの重度の利用者については家族から1日1回は離床してほしいとの意向から毎日食堂へ連れて行くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に話を聞いたり、サービスを利用している場合は、直接話を聞いたりして情報提供をしてもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様と職員との会話、表情や基本情報やアセスメント、日計表、個別の介護記録や毎日の申し送りで利用者様一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に担当者会議を開催し、本人、家族や全職員の意見を聞き、どうすればより良いケアができるか話し合いを行いそれぞれの意見をもとに介護計画を作成している。	原則半年に1度、介護計画の見直しを行っており、介護認定の更新や介護度等の変更があれば随時介護計画の変更を行い都度家族の同意も得ている。月に1度、電話で全ての家族へ利用者の状況報告等をしており、その際にご家族の要望を聞き定期的に意向の確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に日々の状態や様子、気づき等を記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて柔軟なケアができるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の重度化が進み、寝たきりであったり、難しい面もあるが個々の状態に合わせて生活にハリや楽しみが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に併設クリニックがかかりつけ医となっており、クリニックと連携を図り適切な医療を受けられるようにしている。また眼科や歯科医等、本人、家族の希望に合わせて受診している。	併設のクリニックからの紹介で入所する利用者が多く、利用者のかかりつけ医は全て併設のクリニックとなっている。毎日クリニックの院長が往診に来ており、緊急時にも併設のクリニックの看護師がいつでも対応可能で連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護指導時や利用者様の身体の異常があれば看護師に報告、相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設クリニックへの入院、退院が主であり、常に医師や看護師と情報交換や相談を行っている。面会ができるのであれば面会し状態把握に努めている。難しい場合は家族に連絡をとって状態の確認をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族、主治医、看護師、介護職員で話し合いを行い、事業所でできる事を探し十分な説明を行い、全員が方針を共有し、チームでの支援に取り組んでいる。	ホームでの看取りは1年で3～4件対応しており、現在も1件看取り支援に入った利用者が在籍している。支援内容については職員会議等で職員間で共有し対応している。家族への説明は入所時に行い看取り開始時にも改めて説明と同意書を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で定期的にできていないが、資料を基に院内で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回消防訓練を実施している。月に一回防火自主点検表で確認を行い、また定期的に消防設備点検も受けている。不備があった場合は早急に対応している。	今年度はコロナ感染防止のため消防署の立会いは無かったが、8月と2月に火災想定での避難訓練を行った。利用者の負担を考慮し利用者の代わりに布団を用いて実際に避難させる訓練を行っている。避難訓練の際は同法人の近隣施設と合同で避難訓練を行い、連携体制を確認している。	前回の目標達成計画にも挙がっていた自然災害の避難訓練の実施について、今回も実施が確認できなかった。様々なパターンの自然災害を想定し、実際に訓練してみることで防災計画だけでは見えない改善点が見えてくるので一度実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者様に合わせた言葉かけや対応を心がけているが、それでも立腹され、暴言を吐かれたりすると口調が強くなってしまいう時がある。できるだけ注意し対応するようにしている。	利用者に対しての言葉遣いについて特に心掛けて対応しており、やむを得ず利用者を待たせる場合でも、優しい口調や時間の見通しを伝えるなど利用者を尊重した声掛けに努めている。利用者に感情的に対応している職員がいた場合は、管理者が一度利用者から離し、今後の対応を話し合う機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定できるよう、日々声かけをおこなっている。意思疎通が難しい利用者様にはわかりやすい言葉や選択肢から選んでもらう等して、できるだけ自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思疎通が難しい利用者様へも声かけ、表情を見ながら常に支援するようにし、利用者様のペースを大切にするように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合わせた服装、その方のこだわりを尊重した支援に心がけている。整髪や髭剃り、爪切り等細かい所は職員が気かけて手伝っている。家族にも話をし、衣類を頼んだりすることがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けは難しく、ほとんど職員が行っている。利用者様の好み等を聞き、メニューに追加したり、おやつの方に提供したりして楽しみが増えるようにしている。	法人で食材配達業者と契約しており、朝食はホーム内で職員が調理し、昼食、夕食は併設のクリニックの厨房で調理されたものを提供している。また、季節の行事計画を立て、おやつとしてケーキやプリンを提供し、食事を楽しむための工夫を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事形態や食事量チェック表で食べる量やカロリーを把握している。食事量やカロリーが少ない時は高カロリーゼリーやジュースを提供している。また本人の好む物で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きができる利用者様は見守りを行い自分で歯磨きをしてもらっている。難しい利用者様は職員が歯ブラシやガーゼ等で歯磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用しトイレ誘導を行っている。そうすることによって一人一人の排泄パターンを把握し、利用者様がトイレに行きたい時や時間等を見て声かけを行っている。できるだけはオムツは使用せずトイレで排泄していただくよう支援している。	排泄チェック表をもとに、日中は2～3時間おきに他の利用者に聞かれないタイミングを図って声掛けを行っている。自立度の維持のため、できる限りトイレでの排泄を行っている。利用者がリラックスして排泄できるよう、トイレへの移乗後は職員はドアを閉めてコールまで外で待機するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を促したり、食事や間食でヨーグルトや芋、牛乳等を食べてもらっている。また便が出ない時は腹部マッサージや下剤を使用したり、看護師に相談し排便を行ってもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望にそえるよう努めている。朝から本人に尋ね、いつ何時頃に入浴したいのか聞いている。入浴を嫌がられた場合は職員をかえたり、本人の希望を聞き日をあらためて入浴してもらうようにしている。	入浴日を曜日等で固定せず、1カ月の入浴表をもとに利用者の希望を聞いて入浴日や入浴の時間帯を臨機応変に調整している。特に冬場は入浴剤を活用し、利用者に気持ちよく入浴してもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は声をかけ起きてもらうようにしている。運動等で体を動かしたりして夜間良眠できるように支援している。また温度、湿度調整、空気清浄機の使用や布団の枚数を調整し、心地よく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に全職員が薬の効能、副作用を把握するように努めている。特に追加で薬がでたり、変更になった場合は注意して服薬の支援と症状の変化の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビやラジオが好きな方は視聴ができるよう支援したり、洗濯物をたたんだり、新聞を折ったりなど本人が出来る事をしてもらっている。また好きな飲み物やお菓子を個別に提供し楽しみになるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人、家族の希望があれば支援している。現在はコロナ禍で外出支援はほとんどできていない。	母体となる医療法人の院長の方針により、現在は全面的に面会謝絶のため通院以外の外出は行っていない。しかしその中でも、通院の際は車内でおやつを食べるなど気分転換したり、天気の良い日は中庭に出て日光浴をするなど制限の中で工夫を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は本人に任せているが、管理が難しい利用者様が多い。本人、家族に承諾をもらいお金を預かり、職員管理の下必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、つないだりして家族へのつながりを支援している。また家族の同意をもらい携帯電話で家族や知人に電話される利用者様もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が過ごす時間が多い居室、食堂の温度、日光、明るさには注意して快適に過ごせるよう支援している。玄関や廊下、食堂には季節に応じて飾りつけを行っており、食堂の奥には畳がありくつろげるようになっている。また食堂から中庭をながめる事ができ四季を感じることが出来る。	食堂の広い窓からは中庭を眺めることができ身近に季節を感じることができる。季節の飾りとしてひな人形を飾るほか、今後は桜の飾りを飾る予定とのこと。クリニックの院長が置物などを定期的に入れ替えながら飾っており、利用者も関心を持って眺めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間等、利用者様同士が自由に使って思い思い過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族と話をし今まで使っていた物、思い出の物等を持ってきてもらい、できるだけ過ごしてきた環境に近い状態で過ごしていただけるようにしている。	家族には馴染みのものを持ってきてもらうよう伝え、それでも持ち込みが少ない方には居室でラジオをつけて音を聞く機会を持てるようにしたり、写真立てを購入して居室に家族の写真を飾れるようにするなど居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置して安全に、また自立に向けた支援ができるようにしている。食堂やトイレに自分で行かれる利用者様は近い居室にし、自立できるようにしている。		